

円居

令和8年3月19日(木)
備前市立備前中学校
校長 藤森 卓麻
0869-64-3365

後輩へ、繋がった輝いた

卒業証書授与式



体育館に、感動的な歌声が響きました。計画時に、なんか寂しいなあ」と議論になった歌うときの隊形の関係で、私たちは(来

卒業生「答辞」から(一部抜粋)

今日、私たちは卒業します。けれど、終わりを迎えるというより、中学校で過ごしてきた3年間という「時間の贈り物」を受け取っているのだと私は感じています。入学してから3年が経ちました。わけもわからないことで笑いあつたとき。意見が合わずぶつかりあつたとき。変なことで喧嘩したとき。どうでもいいようにでかけがえのない会話をしたとき。あのときは気づきませんでした。でも今ならわかります。あの瞬間の一つひとつが、確かに、私たちをつくっていたのだということ。

思い通りにいかないこともありましたが、何度も失敗をする日がありました。けれどその度に、隣には仲間がいました。「大丈夫」と笑ってくれた人。何も言わず、そばにいてくれた人。その存在が、どれほど心強かったか。

在校生の皆さん。私たちを、これまで支えてくれてありがとう。行事や日々の学校生活の中で、皆さんの支えがあつたからこそ、私たちは安心して学校生活を送ることができました。これからは、皆さんがこの学校を引っ張り、さらに素晴らしい学校をつくっていくことを願っています。皆さんのこれからの活躍を心から応援しています。

そして、みんなへ。これから私たちは、それぞれの道に進みます。また同じ教室に集まることは、もうありません。でも、思い出してください。私たちは確かに、同じ時間をともにしました。同じ場所です。笑い、悩み、成長しました。この事実が消えることはありません。未来の私たちが迷ったとき、今日という日がきつと背中を押してくれるはずですよ。正解を教えてください。

三年間は、決して長くはありません。けれど、人生を変えるには十分な時間でした。この学校で学んだこと。人を信じること。挑戦すること。諦めないこと。繋がりがりそして輝くこと。それらを胸に、私たちは次の一步を踏み出します。もし未来の私たちが今日を思い出すなら、どうかこう思えるように。「あの三年間があつたから、今の自分がある」と。最後に、私はあの時ここに来ると決めてよかったと心の底から思っています。そして、同級生として、仲間として、みんなと会えたことを本当に嬉しく思っています。あの時の自分にありがとう。そして、改めてみんな、ありがとう。

私たちに関わって頂いた全ての皆様への感謝を込め、答辞とさせていただきます。 繋げ、輝け。

(3月13日 卒業証書授与式)

賓の方も)、3年生の後ろ姿しか見えませんでしたが、保護者の方だけでなく、1・2年生の後輩たちの胸にも、ぐつとくるものがあつたようです。その前の在校生代表の送辞、そして卒業生代表による答辞から、その感動の波は立ち始めていました。この卒業式での、特に3年生の中での感動の波は、もちろん送辞・答辞の言葉の力や、歌声の力によるところは大きいと思います。

でもそれより先に、3年生がこの備前中で過ごした時間、積み重ねてきたことが、その感動の大地になつてきていることは間違いないと思います。そんな子どもたちの成長した後ろ姿を見て、私たちの目指している方向がそんなに間違つてはいなかったと感じることができ、それもまたうれしかったです。

曜日、避難訓練が行われました。3年生がいなくなつてから、初めて1・2年生だけで体育館に集まりました。全ての予定が終了したとき、2年生の生徒会長がみんなの前に出てきて話し始めました。まとめるような内容だったかと思えます。

3年生の答辞や歌を聞いて、「すごいな」と感じた人も多かったと思う。そこで皆さんに聞いてみたい。もし今、自分の中学校生活を振り返ったとき、3年生のように想いを込めて話せることはあるだろうか。自分の得意なことや、少し苦手だと感じていることに向き合うことで、三年間を振り返ったときに、自分の言葉で想いを込めて話せるものがきつと増えていくんだと思う。在校生で歌った「大切なもの」も、最初の頃と比べて気持ちがいも、一つにまとまった合唱になつていた。1年生も2年生も、本当にすごいと思う。だからこそ、その力を卒業式するときだけで終わらせてしまうのは少しもったいないことだと思う。ずっと頑張り続ける必要はないけど、ときどきでいいので自分に向き合つて、考える時間をつくってみてほしい。その積み重ねが、自分たちが卒業するときに、3年生のように強い気持ちで卒業する姿に繋がっていくんだと思う。答辞の最後にあつた「繋げ、輝け」という言葉。あの姿を見て感じたことを、これからの学校生活に繋げて、一年後、二年後の卒業式で皆さんはどのように輝くのか。

みんな真剣に耳を傾けていました。なかなか頼もしい後輩たち。3年生の思いが、確実に後輩へと繋がっています。きてきて、この先どんな備前中が見られるのか。楽しみでしょうがありません。



